

武江年表

嘉永廿四年

六



リ 5

112

6



門知
112
卷6

武江年表卷之六

明和七年度寅

古月閏

同政會印

三月十日より湯島天満宮開帳○十日より所蔵所八幡宮より東北野社
 司不義菅神志草像本地親世より開帳○浅草称念寺より三及明顯寺柳
 洲堂聖徳太子三尊佛本開帳○四月朔日より麻布善福寺より越後
 寺田井波園瑞泉寺親書上人宝物本開帳○同日より深川玄信寺
 あり奥洲金澤大用密寺親書如來并帳○茅場町茶師如來開帳
 ○深川津久寺より身延山奥院祖師鬼子母神開帳○四月十二日より
 深川大佛勧進所より二月堂親世寺并宝物開帳○永代寺より徳倉
 寺并焔磨王本地地蔵并帳○五月より八月迄諸國大旱
 近五福不出つた
 印も虫巻寺

武江年表卷之六

俗小以虫をカキと云麦稗も貴一野菜物等の價よりまゝ
四月神奈川の鯛三ヶ喉全死海に若嶺と云の爲て魚多く死す ○六月上旬星月を費ぬく

○麻布永坂光照寺弥勒如来開帳 ○六月十九日八月中旬追回院にて差
峨清涼寺釈迦如来開帳 ○同日より一ツ目八幡宮に旅するて徳洲布施在り

天軍帳 ○青山若光寺ありて徳余松本寺親世寺軍帳 ○今年浪浪の釈迦
開帳ありしより思ひわきて山皇明阿弥若釈迦文佛内傳考一卷編輯

ありて本本ありて行る ○同六月朔日より花前十五堂にて武州松山記書
古田沙門天軍帳 ○七月廿八日夜乾の空ありて丹のごく又幡雲出る

○八月十一日より回向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門開
帳 ○八月十一日夜靈巖寺本堂焼亡 ○八月廿日回向院にて高野二十

遍名号弥勒如来開帳 ○八月より築地本願寺にて甲及轉村若福寺於河
坊聖徳太子開帳 ○十一月市谷長延寺にて雲洲釈迦嶽雲右坊門大開と

成り雷電為右串つ一也二夜のお撲身行 ○十一月廿日官西望月三英卒 藤門山人と号

百里の男あり ○以冬大多く死す ○十一月廿六日書家小笠原一甫卒 名長和称理在事牛込大信寺小葬儀

明和八年辛卯
正月廿日麻布寺より芝邊追焼亡 ○正月廿日儒師宮城龍門卒 名維翰之田玄園寺小葬儀

○正月廿八日書家上田素鏡卒 号陸古堂 信長永元寺小葬儀 ○二月 日不 村松町より出火

あま辺皆焼亡浅草河原前助真先稻荷の辺あり ○二月十日より上野
清水堂千手親世寺開帳 ○月廿日より王子稻荷前助神開帳 ○三月初旬より

伊勢系宮流石 不謂わすありあり我内を本を始くし身小流石あり ○三月八日より
本中川茶師如来開帳 ○月五日より河原花前花徳院ありて武勅比企郡若光

賣市街を何る

栴色角袖衣敷巾の子差の
先妻りたる類うが

○大晦日の夜扇賣の声か

しつらうが此時代より次第止まりたり ○曳尾菴云明和安永の以龍除猫
の繪かんとて市中を常明の者たる名を雲友といふ 又蜀史の一語一言
小天西寛政の以

白仙といふもの年々あつた坊主は出羽の秋田に猫の宮あり殿の多ありて猫と虎とを
画きて社に一枚々納せるといふ自ら猫うたと稱しと猫と虎と虎と画く草を拵て都下を
うれあつた猫を少くといひて入まて画しむれば僅の價をえりて画くその猫の草を
避しといふ云々とありりれり先ある 未詳

○平賀徳溪紅毛の工レキテルを工す一日本にて製糸始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午淺草寺西宮稲荷社樂を後述 午後
休む ○二月廿八日江戸大火坤より良

一節 ○二月廿九日乾より西南の風烈しく土烟を覆ひ日光隠れたる午の刻

目録行人坂大田寺より出火して永壽町通り白金左町麻布辺一系 若福寺
ハ本堂

開山堂 三田新網町辺狸穴飯倉市土清町あざれ靈南坂一筋ハ西久保橋田
のこる

虎が笑虎河門日比谷法門市場先河門橋田法門和田倉法門常盤橋法門
神田橋河門木焼七右道筋法門内法廣藩邸法門日中橋南ハ通
三田町目西例元四日市町茶町西河巻辺より南傳る町中橋を隔り上橋
町追小ハ本町石町辺東西神田町武家方一系小川町入口駿河町
昌平橋筋達橋河門外神田町神田社聖堂湯橋天神社月不を迄
一系上野仁王門山王社下寺不涉車坂下谷辺廣小路河徒町三味線堀坂
中入谷令松箕橋小塚原吉原町子住大橋向掃部宿淺草筋ハ下谷
廣徳寺前通新堀阿比川町香越辺本取寺河堂淺草寺 本堂
妙法
院茶寺中馬道田町新香越橋場より又同日暮六時本々丸山田町
より出火して森川宿追分約込白山傾城が窪入口追うる縄手土物店
千太木入口根津谷中感意寺草坂根岸より 聖蹟日未刻
此所を止る 又相立晦日巳

刻小風小なり或東風ニ成常盤橋外の大火傳る町辺馬喰町二丁目連
 濱町辺堺町葺屋町為座の芝居探芝居四座小畑町大坂町田所所經波町
 住吉町辺伊勢町緩河町室町迄日中橋中橋系橋小いる未刻双方の火
 流り地時大雨降風流るは火より六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋
 の類夥しく焼死怪家人更救を知らず
上野仁豆つは時再度の焼亡之感哀るべき事堪
 ぬべき焼る麻布一軒松中けは後よ載勢う
 ○吉原町飯宅今戸橋場山の宿為本條川八幡寺佃丁二出る芳町の街籠郎由仲丁の飯宅一出る
 ○大火後仍人故大田寺再建立一その初め人二百羅漢の石像を造立之○雲中菴夢太
 横山町は住より一は火より逃れし川右右極要津中の菴より一「排擲せ忘るる
 青江柳のふ」といふをあり一は薪あきより一人よりせとひて百韻をみて一夜を明せしとぞ
 ○三月又日より不忍并乙内まで系生如堂徳寺稻荷明神開帳
 ○四月十日より牛の河前王子権現開帳○四月十九日芳方又火西より東北へ
 飛ぶ○四月八日より小日向大日坂妙皇院大日如來開帳○魚籃觀世
 音開帳○四月より五月迄諸本疫癘流行○四月は谷内菴新宿給舎
えんげや
 とたれいむとあ

再興所免あり甲坊道中人馬修立の示とありて警畧せり○大川中洲抄地

條立成終以町屋の安永四年不登々全々成まり
中洲の抄地揚より南の方浜井
 家白須家菅沼家山屋家を通り

川岸九丁余坪敷九千六百七十七坪余茶屋九十二軒あり其内四季店と云一ハ小東の隅の
 料理屋と云殊々大度之とそ湯屋ハ三軒あり其餘の家数初めハ安永四年より天明八年
 迄十年の間にあり中洲の之を修ひて茶屋茶店を修むるあり一ハ寛政三年元のごとく
 朱樂茶屋の修むる大極修治といふを紙に中洲の之を修むる記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒
六十九才名及賢林甚花儀茶屋中林名院に華次
 初代英一繁晩年の門人あり之始ハ水と云り嵩谷これ門之

○八月朔日二日大風而家屋を吹潰れ甚多焼の小屋吹倒るる多あり

○八月五日儒師村士淡舟卒
名宗雄林林在妻の
 初代大田寺小葉と云

○八月十七日大風而再度小強を覆す本不深川出水床

上連なる大船永代橋を損壊○八月廿七日土佐左系少進光芳卒
七十五才

○九月貳朱張通用始る○十一月朔日救九町以上野所本坊失火

○比冬初唐といふ人日暮里舟敷松子碑を建小海入江貞文を撰む

○再校増補江戸砂子梓乃 沾涼ガ男恒足軒門人 冬涉校訂以

安永二年癸巳 二月国

二月十五日儒師深見有隣卒 林彰善傍又又右史玄岱の二男也 上野護国院ニ葬以 ○三月廿一日平島

長命寺弁才天開帳 ○二月より田向院境内一言親吉開帳 ○同方帰度申堂

青面金剛開帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲崎弁才天開帳

○同月より先稻荷神開帳 ○四月午の日懸地小田原町浪除稻荷祭

町と出練掃ふ必以生後休む ○三月末より疫病仍是人多々死亡 江戸中

二月より五月まで凡十九万人 所救とて朝鮮人參せり ○四月よりお忍びの病

上の宮弁才天開帳江戸より糸清多し ○五月醫學館再建徳医師より年々

寄附銀乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 名敏未 浅草正覚寺ニ葬以 ○葛西本郷

寺日限親世吉開帳 有りて半途は 傍り ○七月朔日より湯島社地にて攝洲

四天王寺聖徳太子開帳 六月廿六日江老翁の時 迹の積まき物 ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あふるゆきて流物の價甚貴なり ○これよりして正月門飾の松舟高ふりあり

名ふしあふる川も氷因て通船絶一日も有し由後見まふり

○十二月朔日神田町神社仮殿にて奈礼の式札乃 當年奈礼の年也有し其奈礼 罹り本社以遠營いませ成らば

産子の町とわり物も有ふり ○安永の始の以綿の実を 作らるるの畑ニ種ニ

生後安永六年速返殿にて札乃以月八亥年九月奉参りあり ○墓所一覽小画人宋紫石今迄終り未本形中植奉り

る若妻を食して死すといふ ○由記せり種々小嚴島扁額縮本又安永七年戊戌五月

唱一般ありてその更ふ賣れり 宋紫石六十三才とて孔雀を画する額を載りよりして植奉りありるし小石碑ありて忌日

慥なり又同方中宗恩ちる其家の墓碑あれども不詳あり

同 三年甲午 正月廿日狩野洞庭島信卒 ○二月八日より川口善光寺浮陀如来開帳

○三月廿日下栢町より出火大風あて救所難焼すと云 ○三月十日中納帳

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺ニ葬以 画并俳遊を名に寒葉齋と号以

○同日より魚藍親世音開帳 ○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間
 寺弘法大師中教福荷田向院にて開帳 ○四月四日より六月八日迄本所
 表町本久寺祖師開帳 ○四月八日より五月十八日迄本下川茶師如來開帳
 ○永代寺内丈六親世音腰籠佛開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺
 親世音開帳 ○西門外河對面所にて信助植料郡白香山康樂寺園光大師
 泚彰親響上人本像開帳 ○二本坂廣岳院にて仙臺性生寺變牛所
 度田光大師開帳 ○六所跡院末本親世音開帳 西ヶ平 昌林 ○同三番西が原
 每量寺親世音開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院
 兩室童子松壽院おとく弁才天獲籠像開帳 ○淺草池の妙寺弁
 才天開帳 ○五月十六日より龜戸天満宮開帳 ○六月六日大雷世七ヶ所小
 岩落 ○六月廿二日大風雨家屋を損し樹木を倒し

○小石川傳通院山内福聚院大黒天夏の以より江戸中一構中を修んで
 甲子の象詣今年より始る ○七月朔日より獲園寺本尊如意輪親世音
 開帳 ○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳 ○七月十五日古華了延卒
七十 ○八月十五日市谷八幡宮祭礼神樂を演じ練物未出 ○八月津より
一才 格元祖齋賀新内死 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末福荷田開
 帳 ○九月医学敏達堂成就 ○九月廿日土山聖天宮祭礼神樂を演
 じ産子の町より出練物を出しは後休む ○九月廿日小石川白山権現
 祭礼神樂を演じ産子町より出練物を出し ○九月深川清殘座止
 ○大川橋始り掛る 俗ふ吾妻 橋といふ 十月十七日渡り始り ○十月廿二日儒師鶴益一卒 左膳
伊豆子長應 ○画人鳥山石蕪豊房香山彦といふ繪本二巻を以て石キボカ
 シの彩色摺を二丈せしむ本を始と云は安房貞翁の語之 石蕪の周信の門人あり板刻の画本也

○又此時代橋の珉江といふ繪師ありて楮紙の粉色を工
夫し職人部敷といふ繪本を何とぞて其外俳諧の点式など製しては
しごとくて廢れしり○投扇の戲行は是を弄す

安永四年乙未 十月間

三月十七日より回向院より京清水田養院景清守本尊 千手觀世音毘沙門天
勝軍地藏菩薩開帳○月廿九日分あふや 渋谷長谷寺より京音羽山清水寺
興院千手觀世音興院の天地菩薩 開帳○大井來福寺櫻樹を栽種し

○四月朔日より祇園上水原大盛寺井頭糸才又開帳○時久戸明社
八幡宮開帳○四月芝切通一時の禱再興○龜戸聖廟小樓門

建屋上小 四林木 ○大川中洲築立地一家庭連續町名を三股富永町と号
し川辺小葺篋圓の茶店をけり是は五月納涼殊々繁々結奇畫

夜小噴

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休說湧金門行樂此中難具論烟暖四時花世界月清萬頃
水乾坤垂楊岸岸樓臺出遊舫人人歌笑喧輸却枕列綠底事恨
無蘓白關詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天關暑以趁涼輕舸向中洲燈棚夾岸花相映蟬竦臥波
橋欲浮鳳管數聲風扇扇星河一帶水悠悠銀罌倒盡人難醉白
紵携扇滿袂秋

中津漫興

十里清湖鏡裡天繁華惱客動留連鷺鷥沙外芙蓉雨楊柳橋頭
翡翠烟秣見黃金單買笑誰知白髮暗催年笙歌眼底鎮長滿自
是來舟非去船

○四月より目黒明王院より鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同
宝戒寺觀世音鑑念女比叢の舟一番地蔵并開帳○七月より回向院より
伊豆二島長岡富士山本地阿彌陀如來開帳○七月より回向院より
相模箱根塔峯阿彌陀寺深誓上人本地法團光明佛開帳

○七月より市谷柳町寺徳院親重を閑帳○八月十三日より晦日まで
 深川八幡宮閑帳○八月廿二日より護國寺山内より後又二十日苗親世音
 不務閑帳○八月茅場町業沙境内より及菟野法界寺朝日如来閑帳○九月
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳○同日より世日と飯田町世徳稻
 花天満宮閑帳○九月十九日牛込赤城明神閑帳○投壺の技行る末小
研尋し○紀伊小湊文丸米門山が実子
文右造築地飯田町に住し終る善しるるが能遊を好む龜山と号し後のち
髪しる明西といふ今年六十作才ふくはる能文が子孫○十二月廿二日儒師
 松崎親海卒名維時孫才孫○薩加より来りヤマ鰲猪アラシといふ数村田村
 屋町田村元雄の家より去りて後淡草と境内より見世物といはれ格の大サを脊
 小名に骨救百本とり怒る時ハ此骨逆立ちて怒りしき等とあり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一秋卒名宗章号玉水孫村孫○正月廿八日より柳島法
 性寺妙見宮閑帳○二月風邪流行○三月末より秋の路を麻疹流行
 人多く死す○三月廿二日物産家田村元雄卒名元臺淡草○四月廿八日詩
 人大内熊耳卒八十六名孫孫孫忠方支下谷廣植才小○五月六日より八月八日迄回
 向院より伊勢白子親重の子安親世を閑帳○五月朔日より矢口新
 田町祇本地十一面親世を閑帳○同日より永代寺より六ヶ羽田年才天
 閑帳○七月朔日より永代寺飛来八幡宮閑帳○七月廿九日荻生道濟卒七十元
祖孫の○八月九日儒師宇佐美瀧水卒名惠字子迪孫助四谷○柳橋若舟
男あり
 登と云船箱の妻一産ふ三女を生し名を梅松さくといふさくは橋の端語ありといふも
 ○品川の辺より石地藏燈を讀む声聞ゆるとて皆人史ふりしが地蔵号の

為^{あひ}覆^{おほ}せ放^{はな}しと^ますあひおほひ後の方^{あた}は蜂^{はち}の巣^すありて多^{おほ}くの蜂^{はち}の声^{こゑ}續^{つづ}けの採^とりあひおほひ

○九月十三日東叡山瑠璃殿并法堂河修復新始名子孫 採苔箱 坂本貴玉院 小藤氏

○十月廿七日書家伊波益道^{えきみち}卒名子孫 採苔箱 坂本貴玉院 小藤氏

○十一月十日夜二更^{ふたご}のころ

新座^{あひ}那^な東明^{とうめい}と次上親世^{つぎのよ}者^{もの}本堂^{ほんどう}焼^や亡^つ本号大中小埋れ

伊^い東^{とう}渤海^{ぼくかい}卒名晃 浅草 万庵 小藤氏

安永六年丁酉

正月廿一日曉青山河^{かみ}大工町^{おほ}焼^や○浅草報恩寺親書上人持物の付室^{ついで}を

洋^ややむ○三月廿日と^とり六月朔日^{しつげつ}まで浅草寺親世^{つぎのよ}者^{もの}并境内^{やまのうちに}神^{かみ}仏^{ぶつ}焼^や閉^り

焼^やあり開基^{かいき}より千^ち百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}年^{ねん}ふ^ふ及^{およ}ぶと云^い能人町百菴の菩提より浅草妙善院の境内小山岳の阿先生位よりを焼ひ焼石

同焼^やありと拜^をり^まひ^ませ^せ中谷と云今の中田と云

石枕^{いしまくら}あり^{あり}思^{おも}ひ^ひの^のう^うね^ねみ^みも^も今^{いま}あ^あら^らの^の里^{さと}と^と移^{うつ}り^り百^{ひゃく}菴^{あん}

廿^に日^{じつ}は^は浅^あ草^{そう}の^の中^{ちゆう}の^の里^{さと}に^にも^もい^いを^を枕^{まくら}かり^{かり}思^{おも}ひ^ひも^もあ^あら^らの^の里^{さと} 明^{めい}河^か

○三月廿五日より湯宮^{ゆのみや}本社^{ほんし}建立^{たて}成就^{じゆうじゆ}した開帳^{ひらき}○三月同日白妙^{しろたへ}長

谷^や寺^{てら}境内^{やまのうちに}親世^{つぎのよ}者^{もの}開帳^{ひらき}○浅草唯念寺^{あさぞのただねんじ}称念^{しょうねん}寺^じ稱念^{しょうねん}寺^じ溜池^{りゅう池}澄泉^{じやうせん}寺^じと七日^{しちにち}より

下野^{しもの}高田^{たかた}天^{てん}拜^{らい}一^{いつ}光^{こう}之^の佛^{ぶつ}吾^{われ}焼^や○四月朔日^{しがつしつげつ}より回向院^{くわうげん}同山^{どうさん}護念^{ごねん}仏^{ぶつ}傳^{でん}中

千^ち祈^{いの}佛^{ぶつ}他阿^あ彌^み陀^た如^{にょ}來^{らい}境内^{やまのうちに}茶^{ちや}葉^{えつ}芭^は亦^{やく}才^{さい}天^{てん}一言^{いつごん}親世^{つぎのよ}者^{もの}開帳^{ひらき}○同日^{どうじつ}より青山

善^{ぜん}光^{こう}寺^{てら}一^{いつ}光^{こう}之^の佛^{ぶつ}陀^た如^{にょ}來^{らい}開帳^{ひらき}○浅草長谷^{あさぞのながたに}寺^{てら}二^に丈^{じやう}六^{ろく}尺^{せき}親世^{つぎのよ}者^{もの}後^ご藤^{とう}の^の像^{ざう}を

外^{ぐわい}古^こ佛^{ぶつ}靈^{りやう}宝^{ほう}開帳^{ひらき}○四月より下谷^{しもや}寺^{てら}町^{まち}蓮^{れん}城^{じやう}寺^{てら}祖^そ師^し日親上人開帳^{ひらき}○搗^う場^ば

不^ふ動^{どう}院^{いん}不^ふ動^{どう}寺^{てら}良弁開帳^{ひらき}○四月八日より飛^と戸^こ社^{しゃ}内^{うち}花^{はな}園^{えん}明^{めい}神^{しん}開帳^{ひらき}○中^{ちゆう}野^の法^{ぽう}

仙^{せん}寺^{てら}不^ふ動^{どう}寺^{てら}開帳^{ひらき}○芝^{しば}金^{きん}以^い正^{せい}傳^{でん}寺^{てら}少^{すく}牛^{うし}込^こ寺^{てら}町^{まち}久^く成^{じやう}寺^{てら}祖^そ師^し開帳^{ひらき}

○下谷^{しもや}五^ご条^{じやう}天^{てん}神^{しん}天^{てん}満^{まん}宮^{みや}開帳^{ひらき}○聖^{せい}岩^{がん}山^{さん}田^{でん}福^{ふく}寺^{てら}少^{すく}出^で羽^は湯^{とう}殿^{でん}山^{さん}黄^{わう}金^{きん}堂^{どう}玄^{げん}良^{りやう}

坊^{ぼく}依^い久^く間^ま町^{まち}少^{すく}大^{だい}日^{にち}如^{にょ}來^{らい}開帳^{ひらき}○魏^{ゑい}町^{まち}平^{へい}河^か天^{てん}林^{りん}内^{うち}之^の小^{せう}淨^{じやう}淡^{たん}島^{しま}町^{まち}林^{りん}虛^こ空^{くう}苑^{えん}

弁兵帳 ○六月より本丸山島若寺祖師開帳 ○六月十一日儒師痛垣若章卒号曰
林島左衛門白山
如法寺小善次

○夏より伊豆大島焼始り南海へ火燃ゆる不川仲子之夜く火光大く
映する也る ○八月十五日日向院にて江及粟津義仲と本若義仲が長守本

寺の日休院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家若山小瀬卒名尚賢若山
後世松原若山

○北秋魚獵ありわが小田原の海中へ大魚来るは又又十層横八九層脊中へ蛸
の類付たる名をメウガサノといひつゝある大船をも覆つてついで漁人

たれく海へ出るあり ○十月日本不動若月を武島多摩郡那谷保天
津開帳 別考 ○十月甲辰身延山七面宮より出火系諸の若怪家人多く

江戸よりも皆をて運あはる者多く九死一生の祥をて御府せしも乃とぞ
安永七年戊戌 七月閏

二月朔日より淺草本法寺あり佐渡五塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄々大風起り本石町より出火靈巖島深川連延焼 ○小幡若町子代回

編若若麻靈宝殿多由と拜せむ ○浅野家の義士垣初安云傍が後

家 縁祖とのひー計りて嫁せざる内 羅發して妙海と号し龜戸村の庵室に居
ま切依を十六才の時あり

うろろ老後泉岳寺の門前住して義士の善境を吊ひ居りうろろ今

年二月廿五日九才小く終れり ○三月三日儒師南官太湫卒 名岳
牛島弘福

○三月廿九日より権町平川天満宮開帳 ○烏森稻荷明林喜日

明林 別考 開帳 ○三月上野清水堂親世若本堂造立あり開帳
映也院

○三田喜日明林開帳 ○お撲身初の日取昔八時天八日成り今年三月廿八

日より深川八幡宮境内においしく身初ありより十日と成り由我衣よ

名をとり ○四月朔日より牛込田福寺あり系本満寺祖師開帳

○四月より護国寺より甲辰大聖院不動若 新羅三弁傳 開帳
武田信玄傳

○六月朔日八幡宮前八幡宮より駿馬富士裾野等我八幡宮より我見方の
像荒人神 玉澄明神荒人神 開帳 ○同日より河津菰野中央より大日如來開帳

○同日より同七月十七日追回白院より信明善光寺跡院如來開帳武時開帳

一と法師輩を以て時以て牌の先小地灯多くとりつれて多声小念佛を唱へて未清の日の多
く平賀橋渡鳥亭馬るが求よりて工更をきり少き草井の替ふに字の名号を唱へてし
せりの小知して利をぬらうといふ又鯉江津二年古沢志平といふりの細工を飛ぶと美堂と
号し何れぬおをえきて外弁ふの形又作りしをせりの懸座といつてせりのかといつても
る鳥をすく ○六月朔日より河津菰野南に大佛勧進所出世大黒天開帳

○六月十六日俳人小栗百万平西中形中 ○六月廿二日より多田茶師内小

武時十条村善光寺正親世善光善光寺善光 智法印像開扉 ○高輪如來よりあし

常陸國麻島郡子生社宮より森又天開帳 ○七月朔日より芝巻宮

社地より千住勝専寺誓大明神開帳 ○牛込七軒町多門院より身毘沙

門天開帳 ○三田寺町慈眼より系引正親世善光中乃振蓮束より 開帳

○七月朔日より湯島社地より武州崎玉郡野島地蔵寺開帳津山より

○七月四日書家山本榮海山本 平名智光持元多由 ○七月八日小割下水花巖花巖

外某河如來開帳 ○七月十六日より滝草清水より千午親世善光本堂建立成

就より開扉 ○七月滝草寺中嘉念院妙見宮本堂建立入佛より開扉

○七月廿八日より滝草寺中智光院より信助善光寺越村住生より新堂新堂

感得跡院如來聖徳太子 蒞萱新親子地蔵寺開帳 ○下落合村某王

院釈迦如來開帳 ○八月廿五日龜戸天満宮祭禮社樂形列古例の如く又

産子町より練物木出で縁以大方あり中後

○七月廿八日儒師鹿島探春卒名方房号東郊外

安永八年己亥

正月十四日夜青山慈野権現別當淨性院自火 ○三月板津控取境内

あきく山旅所に孝地親世吉開帳 ○川崎年間寺厄除弘法大師奉
賞修復成就小舟開帳 ○

武江山聖天宮西の藤小舟の池あり池中は石投げ等
と号し又江ノ末の老鬼の立像あり兒童石を投げた
小舟返入といひ傳へり一年火災不罹り池も埋まらぬ由上中不埋れ四十年未初る人あり
今年のもく徳王八日市田の百姓平山忠大弟のといふ所の江た小舟あり以所を借きて酒樓
と名づけ池を改め三条小舟を築きて三橋高と号し又藤の女小機を織らしかて客
小舟をひくとその時の石像を池のほとりて移りて今在
り大集衣婆の像あり ○四月朔日二日大寒一三日大雪降 ○四月八日より

浅草奉法寺にて新曾妙顯寺祖師釈迦如来開帳 ○月日より回向院
より伊勢朝熊岳金剛院寺虚空花菩薩開帳 ○押上最教寺蒙
古退治の旗曼荼羅を拜せしむ ○下谷徳大寺摩利支天開帳

○四月八日より浅草権寺 二見 徳野寺地味地味 開帳 開山親智開師 徳撰奉書

○四月より七月迄百日のちね洲江の橋奉宮岩屋奉天開帳 別考 開帳

○日蓮本願寺内之信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地持井 別考 西考 開帳

○芝岩山内之浅乃山虚空花并中後鬼林堂地持井開帳 別考 延命考

○五月十五日より廿九日止江船菰前勅進所之南於東寺二日堂親世吉并花帳

○六月八日より茅場町茶師内之武洲下新屋村東明寺吹上親世吉開帳

○湯島本神社地持之多摩郡谷古田領新里徳性寺茶師如来不動寺之在

帳 ○八月より深川八幡宮奉地愛深明王開帳 ○小石川毎量院小小野

の小町の墓と之を和洲より移し之由へ今年小町の九百多思より八月八日

法了修好 小町の祥為三月 某の日ありとり ○八月廿五日大風雨洪水和泉橋落目白下水

道楫極の塚せり程 小日向水乃下辺 住来水寺延徳寺 ○淺乃度品川の前邸一院殊寺の

争を起て極る者人を珍賞す 世小蓮小舟 争と稱し ○九月二日俳人梅野菴五建平

七年云々小石川 一考も空考以 ○九月より十二月迄小細町より甚左衛門町へ移るに之をこれ橋を

壊ち此所の地を埋むる ○九月十五日牛河前多礼社樂と後一考子

町より出たり物と出たりるが中経る○去年冬より俣豆大
焼出夜毎西南の勢にて江戶迄も雪流れり○十月朔日夜より
二日迄灰雪の如く降る大隅國様為焼くが所灰江戶迄も雪

り○十月廿三日佛人益家丸兼平六千五百上の山下 啓運寺小僧○葛西柴又村野

今年堂宇を修理せし奉堂の棟上より今の帝釈天の板九世日 致の時

多しゆこれをもつる是箇より傳へて先づ其ひ一奉考との日庚申一ふ高し

○今年五日 六月書家烏石葛原系初小於て卒八十文字若岳号白雲坊 廣傳の門人なり

○十二月十八日平賀旭溪卒名國倫松原内号風来山人松崎總泉号小華 一史小安永九子年二月と由云

安永九年庚子

正月八日書家後山敷兼平名秀盈後山流の祖人 下谷名福号小華○二月十五日書家山本昌

信卒称菊池三回 隆永号小華○三月八日基井千七十年供養六阿弥院如來子孫

回向○二月朔日より湯島社地より上野世良田感徳山惣持寺十一面

觀世音開帳○麻布岩福寺冠縁聖徳太子開帳觀音上人草八字居

号を詳せむ○千代谷八幡宮祓功皇后春日神開帳○三月朔日

市谷柳町先徳院子之觀世音開帳○同日より池の妙寺の祖師開帳

○三月十日より青山善光寺の攝津難波堀江一光之尊佛開帳和光寺

○三月十六日氷代寺より葛飾郡吉川延命寺地藏尊開帳○四月朔日より

回向院より目黒祐毛寺阿弥院如來祐毛大佛正定新開帳○四月朔日淺

草西福寺每量壽仏花什物 觀世音開帳○四月朔日より極樂水光寺元木某師

開帳○四月十五日より飛田村祥雲寺聖觀世音并深川寺町志慈寺より

開帳○目白不動尊開帳○淺草天主堂西の橋始り○四月十六日より

羅漢寺三市堂建立八月の成就狭又坂本 西國の写百觀世音安座供養あり名俗某師

○四月房州南浦異國船漂着南系船長廿八人等といふ

○五月高田室家おろし石を獲て富士山を築今月成就す ○或書より六月

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月三日之雷雨

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光隆院 ○六月廿四日儒師相宮親山卒

此年間に紀事

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成

○十月十五日山岡阿若系於小卒 名後明

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

堀の内妙法寺祖師追日系諸人群集以 ○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写記世言札不巡りせ定む ○江戸小二十五卷新田光大師巡拜祈せ定む

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

○安永十年俳人提亭此探る種おと云句集小載る所の室時代のも多し物高物

三邦新近嶽雲右忠の未行る 安永の以りては深川永代 ○狂哥師 平後東也 あて初進南力島形あり

蜀山人多柄固持唐衣搦洲 ○軍談師馬谷 落一祐石井魯石行る

○浮世繪師香居清長 粧を摺給本真信の以より以牙小巧お成 古丸堂美濃 一を信考工更より珠小美濃あ成より

長川美町 金橋 哥川豊春 一竜 ○能人相露菴多醉四時遊觀録 こいりの

といふ面搦せあはるは江戸花曆見小始る ○浅草寺境内石地蔵尊 因果地蔵

流石に後奥山三途川焼像初取の若多し ○坐先稲石境内茶 といふ

店の婆々油揚を揚ぐおいこくと噂の時批出て合ふ皆人毛を見り ○婦女の げん

髪さし始る ○名入温石始る ○裸人形腰折れといふの造り始む げん

再按る
小抄
文政四
年十月
終れり
小石川
慈照院
小葦次

○小石川借通院大馬を中り如くは以門前の表町前小辰已屋惣云清といふの田楽某版の 店を出してはるこの物も養生貨強記をふせ以弱きを助事願ふ使者のありては若年よ
里神楽中りの其似せしと化踊とて山王神田の日の参礼も出て踊る或は女のかつらとて あり小系女とあり巫女の其似をありてとや或は若廣藩中の若者の多小強てはれり是と合箱ハ
ありれともうは文化の半の以林田島礼の時七年傳才あり出のよおをうと踊りておのれも者 あり其以七十余ありて終り 南畝先生文化元甲子秋若場一趣りれ時高船の清人程赤城にお

つまがわの衣已登の着と血を二つ小割りて如く面白極なりといふとてはれとて衣已登ら 禹傳小南畝先生の聲あり おまかりと神樂の半は衣已登られ本娘や花さるせは前

○安永中島山檢校遊里小趣遊女漱川と身交し巨万の金銀を費せり は檢校法人小金銀を貸してその利を食ふり

○山王神田系礼の時花万度せりといふ は檢校法人小金銀を貸してその利を食ふり

○山王神田系礼の時花万度せりといふ 安永中越後の若きと女世といふ 大女の力持ゆてはせれおあ知り

天明元年辛丑 四月十三日改元 五月圓

正月八日新找本町和國餅の店より出火あ芝居その外敷焼 重慶橋小 いりる

○二月朔日より浅草妙善寺にて鎌倉名越谷長勝寺祖師再結 いりる

○二月朔日淨瑠璃語元祖常盤津文字太夫死 廣尾 ○二月十五日 祥雲寺小葦次

より回向院より中徳小金 善化宗 一月寺釈迦如來不動尊の開帳 又八箇三葉

ある林 ○三月十日と十三日と多田中より肉まて 信州善光寺回向如來淨宗文内 あり 喜國

少き以 ○月十日と十八日と沼田延命寺にて 拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼久々絶りて今年神樂宗新産子の

町（出）練物（中）練物（中）練物（中） ○四月八日より圓向院にて山城嵯峨二宮院跡祀遊
系光大師開帳 ○淺草本法寺にて下総國平賀寺祖師開帳 ○茅場町
茶師内多し和久大峯寺の河原才夫開帳 ○古川茶師如來（極）練物（極）開帳
○敷（ま）橋（は）宗（そう）係（けい）寺（じ）にて甲斐國郡内小町之村西方寺十一面觀世音開帳
○目白不動寺境内にて武藏惣社住吉和方三社開帳（練）大宮司
○六月五日淺草寺第六天祭礼神樂出練物少し ○六月十四日儒師井上榮
隆（ら）平（へい） （名）速（はや）稱（な）野（の）右（みぎ）重（むね） ○六月十八日四谷天王稻荷祭礼神樂出練物
少し ○秋葉東洪水江戸橋損次 ○七月初日より圓向院にて奥州外濱百津
寺岩中山三社奉地跡祀如來觀世音并茶師如來開帳 ○同日より淺草寺
泉寺にて武及八王子奉寺祖師開帳 ○四谷南寺町生成院塩踏觀
世音開帳 ○東叡山護國院常念佛堂五日圓向 ○下谷徳大寺にて中

山法花經寺祖師開帳 ○七月初日湯島社地にて小野社司内安並天
満宮開帳 ○八月より淺草寺荒沃不動尊開帳 ○九月晦日子刻若菜伏
見町（一）本（ほん）江（え）下（げ）より出火一町の除焼此交ハ假宅あり ○十月十三日蓮
上人五百年忌法花宗寺院法筵を設く ○十月十四日目黒長泉院開
基（き）礎（そ）門（もん）律（りつ）師（し）寂（じやく） （譯）普（ふ）寂（じやく）号（ごう）乃（の）光（くわう） ○十月廿日より十一月廿日淺草寺觀世音
開帳 ○隅田川兩岸二覽二巻板行成 軸物を刊行する事少く窪岡甚盛水の筆
下谷金枝お位一巻書を保ちて ちり紙は法華經性院の中辻光庵にて著書と製し紙は分於下
文政の末おも尚存在りとす 實して日々翠華集一巻あり貨食舖の如しよりて本より信られり
天明二年壬寅

三月十日より永代寺お老路八幡宮本地甚深明王教於公教觀世音
開帳 （武）時（じ）護（ご）内（ない）一（いつ）出（しゅつ）一（いつ）巫（い）女（にょ）のおすことりり
 （若）女（にょ）の安（やす）之（の）ありてありき名由あり ○三月七日二井親和亭 八十二大号竜湖縁縁席
深川寺丁 増林寺尊 ○三月十五日淺草寺念佛堂にて英濃谷汲華嚴寺十一面觀世音

開帳 ○同日より回向院にて奥州金花山赤牙天開帳 ○芝金枝正傳与之中山
 智泉院鬼子母神開帳 ○茅場町茶師内にて小津澄海明神開帳 ○三月廿二日
 金彫工尾崎直政卒 林縁左衛門 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世瑞林父之孫 年三十三 田村初子
 小華 ○四月三日儒師後藤芝山卒 六十才 孫路左衛門 名世瑞 ○五月四日細井九郎卒 名知文 林三郎
 一宇原雅乃人廣海の男也 ○六月三日戲作者伊庭可矣卒 比谷理世子 華氏 孫松次 ○六月天文
 屋敷半込茶屋より浅草(後)移る 半込のあり神田佐久郎 町の小まわりあり ○七月朔日より回向院
 にて武州比企郡三保谷村養牛院子孫親世寺 弘法大師也 開帳 及權本寺
 ○七月十四日夜九時十音初大地震然人戸外(出)るこの男中一の地震八算(つ)に
 けさお及大山の辺との外の上屋上より石を落し 山留て窓ろくろくろく 又小田東の口にてまじとそ ○七月十五日より下谷正法院内より
 上及敏林光昭寺 延喜四年利根川より 河津院如來開帳 ○十月廿日俳人三物春
 義卒 号有世為淺草 兼公孫も小華氏 ○十月廿九日俳人谷口樓川卒 年那も中 小華氏 ○今年小瀬水

天明二年癸卯
 山切切切以西世三所写親善堂建立 山中動化を慕りて是を營む文政のうり後小 破壊不及ひて今に存るなり 惜むべし

正月廿六日浅草の狂言師芙蓉花江戸小卒 年の登清三清と云 浅草西福寺小華氏 ○二月二日俳人
 二世浅草卒 八十五才坊上の中 昌泉院小華氏 ○二月二日大地震 ○二月より吾妻森吾妻権
 現開帳 ○二月廿日より龜戸葛門院正親世善開帳
 ○二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林也 小華氏 ○三月十四日より下谷正法
 院稻荷茶本北十二面親世善開帳 ○三月十五日より浅草松雲院より齒吹孫院
 如來開帳 ○三月十五日より回向院にて鎌倉永谷貞昌院天満宮法住
 坊本地觀世音開帳 ○青山善光寺弥勒如來開帳 ○浅草報恩寺親
 善上人遺物を物せむ ○三月十八日より六月八日迄浅草寺觀世音開
 帳 寛延四年より三年目迄中興佛と稱開帳 本堂仁王門被損修復あり ○同日より約形堂より下谷正

東三井寺地震并雨暘 ○三月より浅草寺法事ありて後海老岩本実ねる
 祖師并暘 ○三月廿三日南品川大火 ○同廿五日靈巖島火事 ○四月
 八日深川辺大火 ○同十日浅草寺の寺火 ○四月朔日より湯島田代
 寺十一面観世音立火并雨暘 ○同日より浅草寺町折橋花本地十一面観
 世音雨暘 ○同日より浅草寺日輪寺ありて奥州會津西光寺日辰地蔵寺
 雨暘 ○同日より下谷五條天祚天満宮雨暘 ○四月八日分芝愛宕権現
 境内より下徳米倉山等妙寺十一面観世音雨暘 ○六月十五日より
 湯島社内より小日向若花谷明照寺地震并聖徳太子不動尊雨
 暘 ○五月より霖雨暘ありて ○六月十六日より大雨降續十七日別て
 大雨より浅草小石川辺出水大川橋柳橋墮り小日向大洗堰石垣崩
 是れ田上水切る ○信濃浅草山火坑火焼江戸ありて七月六日夕七ツ

半時より雨小の方鳴動一翌七日日形を一天闇く夜の如く六日の
 夜より雲集筋毛灰を降る降る懸一井本枝積雪の如く八日あり
 里快晴と成る

浅草山焼出せし喜の以より始り常小雷一乃が別て強く焼出さる六月廿九日の以より
 望月宿の辺よりなる小畑立雲の如く雲一面を覆ひ雲の根ありて思ふく一
 七月は雨より毎日雷の如く山鳴り次第小雷一昨日夕方より青色の霞降中より翌七
 日の朝より雨降る音強く昼より横間甘女より四十分位迄の軽石の如き小石降り之より
 形ありて七時より雨降出一時雨暘の如く人散りて分り内より火を燈しさるる
 用ありて水俵をくつもさるる計りて未だ雨降る二時計りて空晴るとは
 又降るのうら小雷火の玉飛上り暫らく向りて小石降り鳴き強く降る子
 又降る雷強く降り空の中へ三に一なる空へ向ひて降出た鼓を打て雷降るとは八日
 於に時等敷の如くまより少一時降出た鼓を打て八日九寸位積る奇蹟一
 又翌日明け雨井辺ありて降の雨量り一八寸あり降るを以て八日九寸位積る奇蹟一
 て三日計り終井沢皆越分松島に降る二寸計りの降り人家を潰す
 家と捨て退き遠くの如く命を全せりも雨り小田井大釜の辺に松島など出て人
 禰師鉄炮を遊遊く七日夕我妻辺の山より大蛇も出たり又九日己の時利根川の上
 松島より水が成り暫時泥多山の如く押し入る船あり中流八丁河原の辺に樹木家
 屋人等の死骸流し多き懸り中流の川に焼石お水熱湯の如く上州一國の民も三日登
 夜途方より信より上野懸谷辺遠道を遠あれとも五年の形物ありては方の難ありて

死するもの九二方五子餘人といふ小田井宿ハ格別の障子一両風強く一と遊分宿一(夜屋)一とといふ昔天治元年七月あゆむの如きりあり一由中右記ありんをり又元禄十六年十二月あゆむ此山焼くれども六年の如くあゆむりあり一とわ江戸あても硫黄の香の川水中川より引渡(通)一保豆の海辺と悉く濁る依て芝浦築地後炮術の辺あても今も津浪起るとて大に騒動一佃島の男女事七孫ら以難具と運以く障代小居るり九二日あり

○此頃綿麻價貴一○夏より秋迄霜雪冷き一と帷子と足る日あり

大に拾衣綿入る○七月十日より芝野岩地内少く本所五月自自性院延命地蔵寺

意覚 冥焔○七月晦日古草八代了泉卒江戸○葛為半田稲荷社修復効化せんげん

大師化 漸免もて江戸中の私宿(施敷)を募る○関東奥川筋飢饉○八月十五日亥の

刻月蝕くわんげつ 良分りやうぶん 一夜の夜もこれと ○九月十日書家小何保壽卒七十年号中意又壽果

義山権現居扉○十月廿八日曉八時小借る町を子月よりお火大風あり

一後をより當年の始る 是迄二十台番の支後一りり運興夜ふ 同日より産妙

大借る町通旅籠町 田所町 若川町 堀江町 小堀町 寺下町 邊場町 葺屋町 通本船町 小田系町 室所 旗籠町 寺外 救所 焼亡 門日 午刻 終る

○十一月書家松山文虎卒 名教和祐源也 幼遊於松山也 十二月廿日己の刻迄淡草を越より

出火本町核個(飛)以望川通所船後通り津川六右衛門本所を靈叢寺

浄念寺塔の岫迄焼る○十二月廿二日書六半時坊上存方丈焼失

○秋の南力冬小延て寒中お身仍るり今年より始る

天明四年 甲辰 正月間

正月二日夜青山麻布辺大火日夜四谷新宿焼亡○舊冬廿七日より二月

三日迄より彗星坤の方小破る○閏正月廿三日曉八半時林田新治町二丁目

より出火鶴町本所核町由啓町堅大工町新石町二丁目塗師町焼亡

○二月初午鳥森稻荷系出練物少氣○二月より四月廿一日迄中の々

如多福寺聖徳太子開帳 ○二月小川町三條稻荷明神開帳 ○三月十五日
 より五月五日迄回向院少く相州園中最高寺道了権現開帳 ○葛西花文
 村正堂寺勢大明神開帳 ○三月廿一日弘法大師九百五十年忌 ○川崎車馬
 寺弘法大師開帳 ○獲志寺護持院弘法大師遠忌寺什物開帳
 ○永代寺少之山城宇治平為院縣社奉祀如多福報世寺開帳 ○牛込本福寺
 少く中山法花徑寺奉堂祖師開帳 日法上人 開帳 ○浅草寺法王少く佐渡難太
 郡小濱村妙宣寺祖師開帳 ○鶴戸天満宮開帳 ○四月より子持谷鬼子
 母神開帳 仙壽院 四月より深川靈雲院少く永泉涌寺新迎如來肉付
 佛舍利開帳 ○四月十日茶人清水玄昌卒 下谷竜泉寺 小壽寺 ○四月十六日丑下刻
 若糸水道尻より出火廓中焼亡 飯宅向島小回向院赤法堂 並木物形美形町あり ○四月廿六日高
 芙蓉卒 年二十 墓刻の上よりあり 大橋町寺屋院小壽寺 ○諸國肌僅時腹仍れ人多死也

○五月二日萩系宗固卒 八十二才 名貞辰百花園と号し法花院の講士あり鳥丸光榮との如
 門人少く和奇少く以映年ありは谷花本横町ありて卒せり
 上金我卒 年三十三 名徳也稱文字卒 其者松より卒せり ○八月十日國學者為田沖凡卒 年七十才 号安富
 ○九月十五日より十月十日迄千住慈眼寺少く野島津山寺北苑寺開帳 年七十七 稱高松
 ○九月十八日後藤氏十二代延家卒 年六十 ○十月より五年の曾仙齋少く南鏡を鑄
 らる ○十一月桐長桐芝居橋を改し時馬橋と云れ言せり 乙冠袴衣太の衣裳少く
 是昔の女形の 送風多しといふ 此鼓一様を以て稱し
 ○十一月東本願寺奉堂再建棟上 ○十二月六日夜太白星歳
 星を祀る ○二月十一日月五車 星の 名を祀る ○十二月廿六日夜戌下刻八代海川
 岸より出火為小風烈しく大石小路新橋奇燈橋弓町緋屋下辺八官町
 の辺尾張町より本横町芝居仙齋屋少く藩邸の辺北の系橋辺迄鉄炮例築
 地海を為奉郎寺南小田系町辺迄焼畑翌廿七日申刻深助町辺より大強り

大小名藩邸町屋少のり追夥し焼亡之
○十二月廿九日儒師并子柔卒
号信介
儀多矣此の事

天明五年乙巳

二月十日より日向院之鑑會称名石勒者関焼○同日より日向院にて豆洲
八丈島為朝明神幸地荒井因焼○三月より洲傍舟才又一香焼○月八日より
河之傍中の宮舟才又一香焼○一儀多妙者老老二の如抄
寺祖師宗焼○二月廿二日儒師清田若錦卒
○二月十八日福王雲卒
○三月廿二日小川卷山卒
○五月廿二日曆学若大満豊明卒
○六月朔日より九月朔日迄日向院之儀裁清涼寺釈迦如来関焼
○六月十五日より湯島社地にて武州野島地系
○七月十日儒師大鹽鼈諸卒
○八月十日加藤枝直死卒
○九月十日より深川靈雲院にて水戸祇園寺に越禪師大明將
○十月十九日儒師久保忠彦卒
○十月廿九日

○六月十五日より湯島社地にて武州野島地系
○七月十日儒師大鹽鼈諸卒
○八月十日加藤枝直死卒
○九月十日より深川靈雲院にて水戸祇園寺に越禪師大明將
○十月十九日儒師久保忠彦卒
○十月廿九日

同 六年丙午

十月日

官府より嚴しく制しぬ町々ありては竹柵を據り一教を固嚴せしむる
 暫時に結なり ○五月賊民に正教とて金子を擄り六月米大豆を並せ以て
 賈しめらる ○八月十三日曆学者小沢紫江卒 名政教林多門野地 浩めす小葬儀 ○八月廿日
 書家伊藤長林卒 字万年号匡山 淡草亭号小葬儀 ○八月廿二日谷中感徳寺北門不於
 赤叡山時の鐘を鑄改む日月廿八日善寺の時鐘を撞く ○九月七日能治師
 雲中庵藤太卒 七十六大島氏名陽喬空曆居士 是後深川要津と小葬儀 ○九月十二日井の水邊ありては
 不姓言ひらする ○十月九日曉刻に古系南町より出火し一廓中焼
 冷焼亡花川中連親焼死 後甚大指例深川妙地八幡寺中御馬永町を焼あり 之れがりの名居の足がみしとのひよりわらふは後宅留久
 ○神田の神楽礼十一月あ近る再延引し十二月三日小波る登時なる時
 天明八年戊申
 正月元日大雲路 ○正月廣東人參賣買正信止ありしをゆるしあり

○四月朔日より深川深谷より身延山祖師開帳 ○月十五日より淡草
 池上旅立祖師再帳 ○四月十日夜戌刻光物飛入屋の如し

○五月八日儒師大江維翰卒 東師の天に資衡が子 芝天極寺小葬儀 ○六月十二日英一峰卒
 西門の光光 号本山 林抄卷 名林 号然居士 淡草流末ち小葬儀 ○八月廿一日書
 家岡敬明卒 号本山 林抄卷 小日向林名ち小葬儀 ○十二月寺院二命しぬい後岡山焼奥州

○十二月寺院二命しぬい後岡山焼奥州
 飢饉度際岡東出水系於大火焼死溺死おけ禍小罹りしもの存小施縁鬼
 と修めしあり 江戸の本新田向院小松川仲養院あり 系於大火といふは今年正月晦日洛東 岡東より出火し洛中洛外大肉と肉をとりこの大火の身を委曲ふ 甚しく花紅系於形と形せる板本三巻あり 又大典禪師平安菩提の記をりし

此年間に記事

天明の頃名家 △儒家金我旭山 芝山 北海 雀鳴 瓶山 △詩人 西野 僧
 六如 名慈周 △書家 其寧 東江 親和 改嶺 韓天壽 牛山 △和歌 千蔭

春海自寛 重政 権守 林 画家 宋雲石 嵩谷 嵩溪 芙蓉

山島 横氏 秋山 横井氏 俳諧 蓼太 完東 妍希 珠来 得器 金羅 貫河

言武 彼平 白雄 狂哥 四方 赤良 蜀山人 朱樂 菅江 元の本阿弥 大極 裏住

宿屋 飯盛 康洋 初志 彰 沙金 持 さら 綿鶏 戲作者 通矢 三

二意川 真明 狂奇 異 芝全 交 万象 亭 二代目 風来 唐来 三和 右の人を 戯化者

の古家 振といふ 可笑 七珍 万宝 若の 唐丸 觀水 堂 大阿 芝菜 樹下

石上 ありて 河あり 河あり 江戸 浮瑠 璃化 若紀の上 太郎 菊泉 亭 二代目 福内 鬼外

相貫 四容 揚袋 玉泉 堂 鬼眼 舟治 馬馬 舟外 琴曲 山田 檢校

八人 藝川 島哥 命 仍り 父子 小舟 遊 あり 天明の 以地 口の 變態 あり

諸君といふ 天明の 代の 中 あり 物を 集り 江戸 名物 廉子と

歌せる 茶紙 あり 合巻の 再 あり 月 録 二七 記 在 陸奥 腰 於 本町 色紙 互 齋 味 吟 齋 元 信 本 齋 齋 齋

△奇此 瓦 鬚 髪 船 △油 町 紅 繪 △白 木 呂 眼 △本 町 益 田 同 茶 呂 香 △飯 堂 塗 物 △清 水 亭 宿 控 △初 化 後

△赤 坂 元 茶 亭 △淡 草 茶 亭 △芝 三 茶 亭 △横 町 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

△赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭 △赤 坂 元 茶 亭

